

母校への想い

愛知淑徳中学校養護教諭 遠藤清美



今年で学園創立107年。桜の花びらを肩に受け、両親と共に愛知淑徳中学の入学式に臨んだのはもう半世紀以上前の事。「剛健質実」という校風は、親の願いに叶っていたのでしよう。1年生の時書いた作文を担当の先生が誉めてくださった時の母の嬉しそうな顔が浮かびます。学校に対して抱いた安心感や信頼感が揺らぐことはありませんでした。

中学高校在学中は図書委員で、図書館が充実しており窓からは木立が見えて雰囲気もよく、存分に読書ができる環境は魅力的でした。文集作り、他校との交流会等自分たちで企画していく喜びがあり、先生や司書の方、先輩とも親しく会話ができることで大人になったような誇らしげな気持ちを持ちました。今では珍しくありませんが、アメリカから留学生を招いたり、学園祭や体育祭は当時からクラスも団結してお互いが成長できた催しでした。恒例の先生たちの仮装行列には、故素三郎先生も参加され人気の行事でした。

団塊世代の人数は常に多く、高校

では1学年11クラス600人以上が在籍しており、進学した短期大学は創立4年目で伸びてゆく時代。先生たちからはいつも、誇りをもって貴方が歴史を創るのよ、と励まされていました。合唱団では合唱連合や交流会で活動の幅が広がり、皆で歌う楽しさを覚え、定期演奏会、賛助出演など仲間と切磋琢磨した経験は得がたく、心に響く音楽の深さはそれからの人生にも影響を与えました。「明朗快活」、伸びやかな生活を送りました。

OG合唱団「コール」桜は、短期大学が創立40年の歴史を閉じた時、校歌を歌うため当時の仲間が集まり結成されました。月1度、中高の音楽教室を借りて練習しています。9年目の現在は、世代を超えた60人の仲間が集います。新校舎になって当時の面影はなくなりましたが、隙間風の入る木造校舎が懐かしくもあります。仲間と合唱したい、そして母校が好きだからこそ遠方からも通って来るのです。学校側のご好意に感謝しております。

卒業後は、中学高校の保健室で働くことになり養護教諭の免許状は勤務しながら取得しました。多くの学校でまだ職種への理解が乏しく環境が整っていない時代でしたが、私学の養護教諭たちと研修を積み、学び合ってきました。勤めて日が浅い頃、生徒の事故死に遭遇し、仕事に対す

る使命感や命を預かっている責任感を強く認識しました。体やこころの健康に関すること、性のこと、緊急時の対応や応急手当、日常起こる事故やトラブル等広範囲にわたる仕事です。思春期は、悩んで迷って成長していく時。精神面を支える体制も充実してきました。自立を見守ること、一人一人違う成長を応援していくことが大切です。事柄を解決していくには、学ばなくてはならないことが多くあり、全てが勉強です。

仕事を通じて医療関係者、子どもや女性を支援している団体とも繋がりが多くの方との出会いで築いたこれらのネットワークは、退職後も大切にしたいです。クラブ顧問の経験のうち、青少年赤十字活動に携わる事ができたことは、精神や世界を広げられる貴重な体験でした。プラスバンド同好会(現吹奏楽部)やギターマンドリン部も担当し、音楽が身近にあつて若い人たちと感動を共感したことは得がたく、今でも繋がりをもてることは嬉しいことです。

昨年冬に長年の憧れであり思い描いていた地を旅し、ウィーンオペラ座でのオペラやコンサートを鑑賞し、春の頃合唱したモルダウの流れやドナウの畔に立ちました。懐かしい声がか聞こえてくるような感動を覚えました。これからは、「謙譲優雅」のこころをもつて、いかに後半の人生を過ごしていくかが課題です。